

魅力ある快適空間

アーバンスクエアを創るアリサカ

中間決算説明会資料

15年(2003年)9月



株式会社アリサカ

<http://www.arisaka.net/home.html>

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測しえないような特別事情の発生または通常予測しえないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しにのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。

コンテンツ

独立系アミューズメント施設の運営会社として
九州から西日本、そして全国へ

コンテンツ	P2	中間決算概要	
会社概要		中間貸借対照表	P14
会社概要	P4	中間損益計算書	P15
事業の沿革	P5	H16 / 3期 業績予想	P16
事業内容		アーバンスクエア大須店	P17
業界順位(アミューズメント施設)	P7	有利子負債の推移見込み	P18
店舗の状況	P8	事業別売上高予実比較	P19
ダイエーハーバーランド店	P9	中間キャッシュフロー計算書	P20
事業別店舗数推移と見込み	P10	整備投資、減価償却費の推移	P21
年度別ゲーム市場の規模と店舗数	P11		
上期のハイライト	P12		



会社概要



会社概要

会社名	株式会社アリサカ
	代表取締役 有坂 順三
設立	昭和51年10月9日
資本金	502,250千円
発行済株式数	2,315,000株
所在地	本社 宮崎市本郷北方2485-20
従業員	社員 88名 パート・アルバイト 416名 (平成15年9月末現在)

事業内容

- ゲーム施設の運営及びゲーム施設を主軸に、カラオケ、ボウリング、バッティング、スーパー銭湯等の各施設と他社テナントを含めた**複合アミューズメント施設**の運営



事業の沿革

- 昭和 53 年 ゲーム機械のレンタル業を開始
- 昭和 63 年 福岡市にゲーム・カラオケ店の直営1号店開設
以後、ゲーム店舗を増設
- 平成 4 年 バッティングセンターを事業に加える
- 平成 6 年 ボウリングセンターを事業に加える
- 平成 10 年 スーパー銭湯を事業に加える

あくまでゲーム事業が主力、他の事業部門はゲーム事業の集客目的として位置づけ



事業内容

業界順位 (アミューズメント施設)

(単位:百万円)

順位	会社名	売上高	決算期	市場占有率
1	(株)セガ	69,330	H15/3	11.4%
2	(株)ナムコ	55,070	H15/3	9.1%
3	(株)タイトー	42,366	H15/3	7.0%
4	(株)イオン・ファンタジー	20,135	H15/3	3.3%
5	(株)アドアーズ(旧シグマ)	16,855	H15/3	2.8%
6	(株)ファンフィールド (旧ダイエーレジャーランド)	15,892	H15/3	2.6%
7	マイカルクリエイト	9,430	H15/3	1.6%
8	(株)ワイドレジャー	8,278	H15/3	1.4%
9	(株)アトラス	5,585	H15/3	0.9%
10	(株)プレビ	5,133	H15/7	0.8%
上位10社の合計		248,074		41.0%
15	(株)アリサカ	3,594	H15/3	0.6%

上位10社の内、5社はゲーム機器メーカー
3社は大手流通系の会社

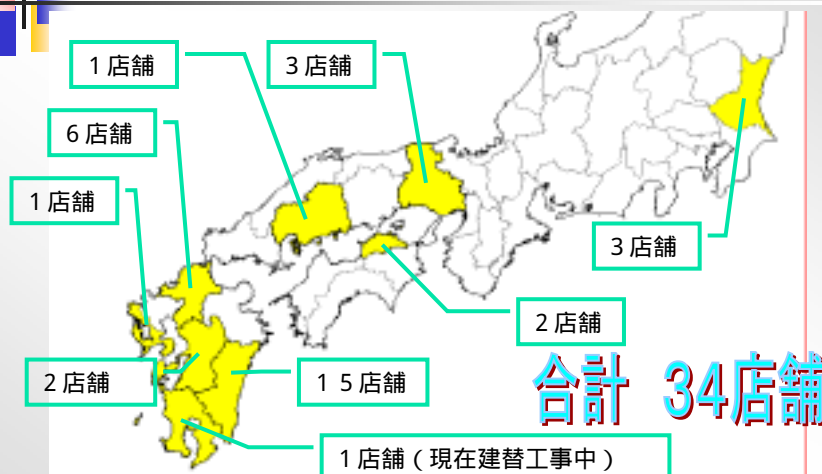
(注)1. 上記売上高は、サービス業総合調査のアミューズメント施設のみの売上高であります。

2. 資料……………(平成15年11月6日付 日経流通新聞記載)。

3. 市場占有率…アミューズメント施設の市場売上高に対して算出しております。

(平成15年3月期605,521百万円…資料アミューズメント産業界の実態調査報告書)

店舗の状況 (平成15年10月現在)



九州地区 複合店11店、単独店14店
九州外地区 複合店1店、単独店8店

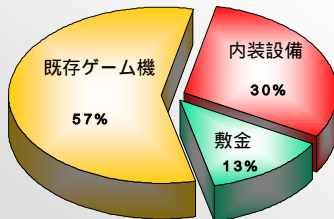
ダイエーハーバーランド店

- 場所 兵庫県神戸市
 - 出店日 平成15年7月11日
 - ゲーム機設置台数 478台
 - スタッフ 20名(内社員2名)
 - 床面積 約1,260坪
- ダイエーハーバーランドSC内のゲーム
単独店
兵庫県神戸市の人口は150万人

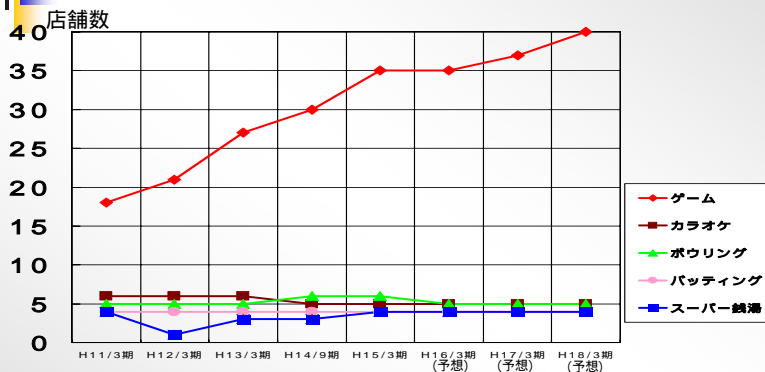
周辺地図



開設費用 140百万円

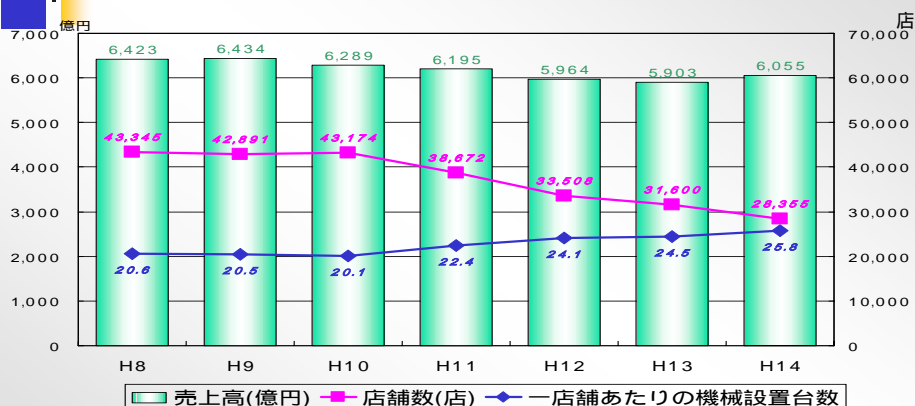


事業別店舗数推移と見込み



- 出店方針：大型ゲーム単独店が中心
スクラップ&ビルドによる事業の効率化
 - 年間4～5店舗程度を計画
 - 小型店等の不効率店の閉鎖を実施
- 平成17年3月期以降は大型複合施設の出店も視野に入れる

年度別ゲーム市場の規模と店舗数



- 店舗数は平成8年度の4万3,345店から平成14年度には2万8,355店に大幅減少
 - 1店舗で100台を超える大型店舗が増加し、店舗の大型化傾向に拍車
 - スクラップアンドビルドが加速
 - 企業間格差がますます広がる傾向
- 淘汰が進み企業数、店舗数ともに減少が予想**

資料出典 アミューズメント産業界の実態調査報告書から(毎年9月下旬に発行)

上期のハイライト

- 出店
 - H15年7月 ダイエーハーバーランド店(兵庫県神戸市)
 - H15年7月 アーバンスクエア都城北店(宮崎県都城市)
 - H15年8月 アーバンスクエア中央通店(宮崎県宮崎市)
- 退店
 - 若松アーバンボウル(福岡県北九州市)
 - プリクラ専門店(2店)(宮崎県、福岡県)
 - アーバンスクエア本郷店(宮崎県宮崎市)
- がらっば本郷店 土地建物購入
- アーバンスクエア天文館店リニューアル 開始
- 配当予想の修正(中間配当10円 15円)
- 私募債発行(3億円、今後の事業資金及び割賦債務の返済)

中間決算概要

中間貸借対照表

(単位：千円、%)

	前中間期末 H14/9月 期	当中間期末 H15/9月 期	増減額	前期比		前中間期末 H14/9月 期	当中間期末 H15/9月 期	増減額	前期比
資産の部					負債の部				
流動資産	923,735	922,733	-1,002	99.9	流動負債	2,525,421	2,415,281	-110,140	95.64
固定資産	8,146,152	8,603,952	457,800	105.6	固定負債	5,219,716	5,539,073	319,357	106.12
有形固定資産	7,254,494	7,707,742	453,248	106.2	負債合計	7,745,138	7,954,354	209,216	102.70
無形固定資産	3,629	124,699	121,070	3,436.2	資本の部				
投資その他の資産	888,028	771,510	-116,518	86.9	資本金	454,650	502,250	47,600	110.47
繰延資産	457	14,502	14,045	3,173.3	資本剰余金	403,150	500,310	97,160	124.10
					利益剰余金	464,402	578,437	114,035	124.56
					その他有価証券 評価差額金	3,005	6,070	3,065	202.00
					自己株式	-	-235	-235	-
					資本合計	1,325,207	1,586,833	261,626	119.74
資産合計	9,070,345	9,541,187	470,842	105.2	負債・資本合計	9,070,345	9,541,187	470,842	105.19
					1株当たり純資産額	674.40	685.61	11.21	101.66

貯蔵品の増加 63百万円 前払金の増加 22百万円
現金預金の増加 48百万円
前払費用の減少 153百万円

出店等による設備の増加 1,165百万円
減価償却費及び除却等 712百万円

M & Aによる営業権の取得 121百万円

敷金保証金の増加 145百万円
長期前払費用の減少 264百万円

1年以内の長期借入金の増加 483百万円
短期借入金の増加 188百万円
1年以内の社債の増加 60百万円
1年以内の設備手形・長期未払金の減少 796百万円
支払手形の減少 76百万円

長期借入金の増加 1,480百万円 社債の増加 240百万円
設備購入手形・長期未払金の減少 1,383百万円

株式公開時の増資 144百万円
未処分利益剰余金の増加 114百万円

中間損益計算書

(単位：千円、%)

	前中間期末 H14/9期	当中間期末 H15/9期	前期比 (%)	H15/9期 計	H15/9期 画計	H16/3期 画比	H16/3期 予想
売上高	2,102,777	2,517,456	119.7	2,420,753	104.0	5,410,000	
売上原価	1,670,121	1,987,098	119.0	1,890,782	105.1	4,179,236	
売上総利益	432,656	530,357	122.6	529,971	100.1	1,230,764	
販売費及び 一般管理費	204,204	240,897	118.0	250,844	96.0	530,764	
営業利益	228,452	289,459	126.7	279,127	103.7	700,000	
営業外収益	57,310	52,102	90.9	40,481	128.7	95,200	
営業外費用	137,062	150,332	109.7	138,954	108.2	295,200	
経常利益	148,700	191,229	128.6	180,654	105.9	500,000	
中間純利益	79,377	78,224	98.5	84,248	92.8	233,365	

売上原価の内訳

仕入原価 181百万円
店舗原価 1,786百万円
機器除売却原価 19百万円

販売費及び一般管理費 36百万円
人件費の増加 17百万円
その他、管理諸費、
旅費交通費、報酬等の増加 13百万円

営業外費用
支払利息の増加 30百万円

中間純利益

不効率店舗の閉鎖及び鹿児島県鹿児島市の天文館店の建物建替えに伴う既存設備の除却損等

48百万円

H16/3期 業績予想

	H15/3	H16/3予想	伸び率
売上高	4,495百万円	5,410百万円	20.3%
営業利益	576百万円	700百万円	21.4%
経常利益	401百万円	500百万円	24.7%
当期純利益	169百万円	233百万円	37.4%
EPS	79.58円	100.65円	26.5%
ROE	12.12%	14.21%	17.2%
ROA	1.90%	2.54%	33.7%
自己資本比率	16.84%	18.92%	12.4%
年間配当	25.00円	25.00円	-

< 計画策定の前提条件 >

・既存店売上高は15/3期比99.5%で計画

(中間期の実績は計画比105.8%)

・当期の閉鎖見込店舗の売上前年比減少 248百万円

・前年開設新店の通年効果 +697百万円

・16/3期新規開設店舗売上見込 +655百万円

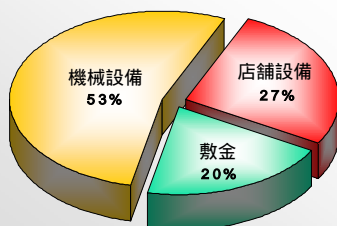
アーバンスクエア大須店

- 場所 愛知県名古屋市
 - 出店日 平成15年12月中旬～下旬
 - ゲーム機設置台数 280台
 - スタッフ 14名(内社員2名)
 - 床面積 約550坪
- 中京地区最大級のゲーム単独店
名古屋市の人口は219万人

周辺地図

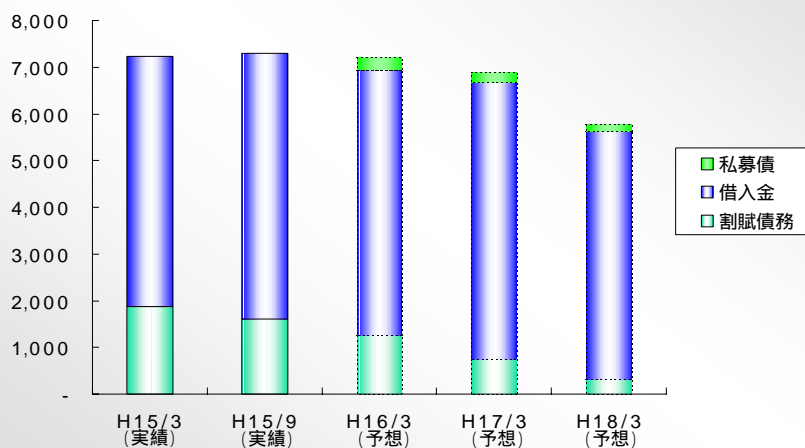


開設費用 150百万円



有利子負債の推移見込み

単位：百万円



事業別売上高予実比較

平成15年9月期 売上高比較

(単位:百万、%)

事業別	前中間期実績	当中間期実績	実績比	計画	計画比	既存店計画	既存店実績	既存店計画比
ゲーム事業	1,648	2,068	125.4	1,998	103.6	1,389	1,467	105.6
ホウリング事業	183	175	95.7	164	106.5	164	175	106.5
スパー銭湯事業	129	131	101.0	126	103.6	90	92	102.5
加勢事業	63	48	76.8	51	99.6	51	51	99.6
パッティング事業	24	23	98.3	24	98.3	24	23	98.3
その他の事業	52	69	131.9	52	132.0	40	52	127.8
合計	2,102	2,517	119.7	2,417	104.1	1,760	1,862	105.8

その他の事業には、機器売上を含んでおります。

平成15年3月期 既存店月次売上高の前年比較

(単位:%)

事業別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
ゲーム事業	100.0	103.5	98.6	94.2	102.4	96.9	100.0
ホウリング事業	108.3	99.2	126.8	106.4	98.4	98.7	104.8
スパー銭湯事業	87.8	81.2	89.9	97.1	122.5	127.0	101.8
加勢事業	88.7	94.1	98.0	92.4	89.3	88.3	91.5
パッティング事業	79.5	95.5	114.3	116.8	108.3	85.8	98.3
その他の事業	78.0	81.0	71.0	127.8	75.4	282.3	124.3
合計	98.9	100.2	99.5	96.3	102.0	102.7	100.8

その他の事業は、機器売上を含んでおります。

中間キャッシュフロー計算書

単位：百万

	前中間期 H14年9月30日現在	当中間期 H15年9月30日現在
営業活動によるキャッシュ・フロー	271	348
投資活動によるキャッシュ・フロー	20	513
財務活動によるキャッシュ・フロー	271	120
現金及び現金同等物の増加額	20	44
現金及び現金同等物の期首残高	340	441
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	360	396

非資金費用

税引前中間純利益	142百万円	法人税等の支払額	56百万円
減価償却費	317百万円	たな卸資産の増加による資金使用	30百万円
店舗閉鎖等による有形固定資産除却損等	22百万円	支払手形の減少	24百万円

新規出店等に伴う有形固定資産の資金使用	440百万円
敷金・差入保証金の支出の増加	145百万円
営業権等其他投資等の支出超過額	71百万円

社債発行による収入	289百万円
短期借入金の増加	226百万円
長期借入金の増加	122百万円
設備等の割賦債務の減少	482百万円
配当金の支払	34百万円

設備投資、減価償却費の推移

